「髄液 IL-8 と電気生理所見による急性発症 CIDP と AIDP の早期鑑別に関する単施設後方視的研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの残余検体やカルテ情報等を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2012 年 4 月 1 日から 2025 年 8 月 1 日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し，急性発症の慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー（chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy：CIDP）またはギラン・バレー症候群(Guillain-Barré syndrome：GBS）と診断され，検査を実施した患者さんです．

２．研究の目的

本研究は，急性発症の CIDP の電気生理学的，免疫学的解析：GBS との急性期における鑑別点を明らかにするための研究です．この研究は，病院長の許可を得ています．

３．研究期間

病院長の許可後～西暦 2028 年 3 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2025 年 10 月 31 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

診療録から病歴，治療歴，検査データ，入退院情報，薬剤情報に関して解析します．通常の診療範囲内で得られた血清および脳脊髄液の残余検体がある場合には髄液中の interleukin-8（IL-8）を測定します．残余検体を将来の研究のために保管いたします．

※この研究で得られた患者さんの情報は、*【埼玉医科大学総合医療センター】*において、研究責任者である山元 正臣が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．試料・情報の取得方法

急性発症の CIDP, GBS と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

基盤研究機関：埼玉医科大学総合医療センター

実施責任者

埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科　助教　山元正臣（研究責任医師）

分担研究者

埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科　教授　海田賢一

４．試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター　病院長　別宮 好文

５．試料・情報の提供について

SRL に外注しサイトカインを測定する。

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター　脳神経内科　助教　山元 正臣

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

外線：049-228-3603(平日 9～17 時)

〇研究課題名：髄液 IL-8 と電気生理所見による急性発症 CIDP と AIDP の早期鑑別に関する単施設後方視的研究

〇研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター　脳神経内科　助教　山元　正臣